

インフォメーション

すべてのお申し込み・お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp
メールでお申し込みの際は、件名を各イベントタイトルとして、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

市民ライター講座2016～取材・執筆体験で磨く！情報発信力～

日時：6月23日、6月30日、7月7日、7月14日(4回連続)
いずれも木曜日 午前18時半～20時半
7月1日～3日いずれか1日、市民活動団体を取材します。

内容：記事の書き方、取材の仕方のノウハウを学ぶとともに、市民活動の現場を取材し、執筆する機会を用意しています。市民の目線で情報発信する力を身に付ける絶好のチャンスです。

講師：大泉大介さん・三浦康伸さん・橋本智子さん(河北新報社記者)

会場：仙台市市民活動サポートセンター

定員：10名(先着順・定員になり次第締め切り)
対象：人に伝わる、読みやすい文章の書き方を学びたい方
まちで活躍する人や市民活動団体の話を聞いて見たい方
地域活動やまちづくりに関心のある方
パソコンでメール送信が可能な方優先

参加費：無料
申込み〆切：6月15日(水)

初めての市民活動を応援します
「はじめてのミニイベント」

日時：7月9日(土)
「企画運営基礎編」午後2時半～午後3時半
「イベント広報編」午後4時～午後5時半

内容：市民活動初心者の方を対象に、ミニイベント(※)の企画から当日までの流れと、広報について、基礎から学べる講座を開催します。どちらか一方だけでも、両方でも受講可能です。

※ミニイベント：講演会や研修会、交流会、活動体験会など、外部の人の参加も想定される定員数名～100名、予算10万円未満の企画。

会場：仙台市市民活動サポートセンター
定員：各15名(先着順)
対象：これから活動を始めようと考えている方
新しく団体・グループを立ち上げたい方
新たにミニイベントの企画を予定している団体・グループの方
手探りで活動していて、イベント実施に不安のある市民活動団体・NPO法人など

参加費：無料

サポセンスタッフから

まちなわライブラリーで
全国のまちづくりを見てみよう！

まちなわライブラリーとは、日本全国で発行されたフリーペーパーやユニークな小冊子、書籍が読めるコーナーです。中身は市民団体と企業、行政などが協働で作成したものや、協働の事例をまとめた報告書。多彩な「協働によるまちづくり」を覗くことで、協働を身近に感じることができます。サポセン入ってすぐ、黄色いテーブルが目印。手にとってご覧いただき、情報収集にお役立てください。(小野)



展示資料は、1階情報サロンのみで閲覧可能です。

●6月のまちなわライブラリー
「地域とつよにまちづくりする企業を見てみよう」
企業が地域で活躍する姿をフリーペーパー、小冊子、報告書などから紹介します。
期間：6月16日～7月15日 場所：仙台市市民活動サポートセンター1階

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは
様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日	6月8日(水)・6月22日(水)
開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ / 地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが仙台の市民団体を取材しに行きます！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer>

情報ボランティア@仙台の学生記者がワクワクビトを取材しています！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

熊本地震「救援・支援金情報」

4月14日夜、九州地方において大きな地震が発生しました。被害に遭われたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。サポセンブログでは、救援・支援情報を随時更新しています。
<http://blog.canpan.info/fukkou/archive/1667>

発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2016年6月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 松村 翔子
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2016 No.202

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



今月の
ワクワク
ビト
OPEN SPACE KIKO 主宰
かつみず あずさ
勝水与茶 さん(24歳)

自宅開放
世界とつながる場を提供

仙台駅から徒歩10分の築30年を超えるマンション。自室の一部を、誰でも出入りできるオープンスペースとして開放しています。動機はシンプル。「小さい頃から外国の人と関わることが多く、たくさんの人と話すことが好きだから」です。昨年6月に始めて以来、国際交流を通じて生まれる新たな出会いを求め、海外からの旅行者や知人、日本全国からも友人たちが訪れるようになりました。利用者はのべ20カ国、250人を数えます。広さ約60㎡の3LDKのうち、自身の寝室以外は「みんなの場所」です。食事をとりながら談笑する人、リビングの壁をスクリーン代わりに映画鑑賞会を開く人…。用途は十人十色です。「育った環境も年齢の違いも超えて、人と人が出会い、異文化に触れ合う。そんな場が街にあれば、多くの人々の学びと成長、地域の活気につながると思いました」。自宅を舞台に繰り広げられる国際親善を、仲間たちにはうれしげに見つめます。

取材・文 加藤里香(宮城学院女子大3年)

OPEN SPACE KIKO (オープンスペースキコ)

連絡先 azusa.katsumizu@gmail.com facebook OPEN SPACE KIKO

利用は基本的に勝水さんが在宅の時のみです。イベントを開いたり、ホームステイしたりするのは有料で、料金は応談。賃貸マンションをこうして使うことに大家の了解は得ています。開場1周年の6月5日には記念行事を予定しています。国際交流といっても言葉の壁は心配無用。「身ぶりや顔の表情といったノン・バーバルコミュニケーションでも通じ合えることを体感してください」と勝水さん。自分の世界を広げに、身近な異空間をのぞいてみてはいかがでしょうか。

特集

地域の魅力を発信！

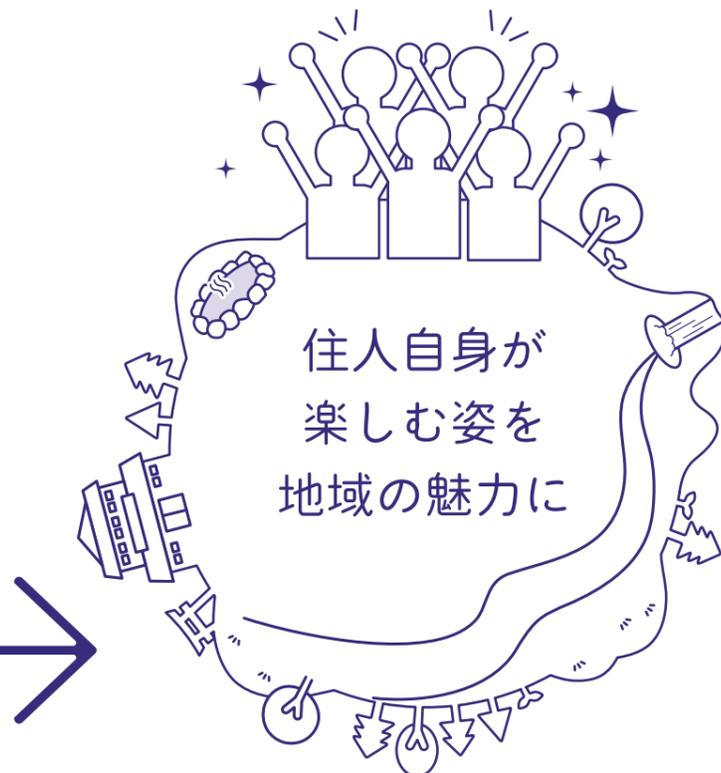
おらほのまちへ来てけさい

秋保地域資源活用委員会

地域の魅力を発信！おらほのまちへ来てけさい

秋保地域資源活用委員会

秋保といえば、名取の御湯と称される秋保温泉、国指定名勝の秋保大滝や高さ150m、幅3キロ以上の巨大岸壁、警司などがあり、毎年全国から多くの観光客が訪れます。しかし、全国的に進む少子高齢化はこの秋保地区も例外ではありません。地域に目を向けると、人口減少は進んでいるのが現状です。誰もが知る秋保の名所とはまた違う視点で地域の魅力を発信し、交流人口と定住人口の増加を目指す住民と行政の取り組みを紹介します。



■連絡先
秋保総合支所総務課
〒982-0243 仙台市太白区秋保町長袋字大原 45-1
TEL 022-399-2111 FAX 022-399-2924 Mail aks015610@city.sendai.jp

自分たちだから発信できる「秋保」

生まれも育ちも秋保の人、秋保へ移住してきた人や勤務先が秋保の人など約20名のメンバーが集う秋保地域資源活用委員会(通称・いってみっぺ秋保)。メンバーの共通点は秋保が好きということです。秋保の魅力を町内外へ発信するとともに、秋保の地域づくりに関わる人材を育てることを目的に活動しています。

委員会は、まち歩きパンフレット「いってみっぺ秋保」を発行しています。特徴は、メンバー自身が紹介したい「秋保の楽しみ方」をテーマに作っているところです。湯元ならではの昔話に関心のあるメンバーは、民話発祥の地を巡るマップを。幼い頃から秋保に住むメンバーは、いつも自転車で走っていた農道をサイクリングロードとして紹介するマップを。他にも、ヨガをしながら秋保の大自然を満喫するマップなど、メンバーそれぞれが秋保愛を込めて作っています。これまで10種類を完成させ、地元温泉宿や公共施設で配布しています。

魅力発見のプロセスをみんなで楽しむ

秋保地区は人口減少が進み、2016年4月現在、65歳以上の高齢化率は地区全体で33.5%、秋保小学校区だけでみると39.5%と高いのが現状です。秋保在住で委員会事務局の伊藤幸哉さんは「子どもの声が少なくなった。商店もシャッターを下ろしており、以前の活気がなくなっているように感じる」と住み慣れた町の変化に危機感を抱きます。

委員会結成は、仙台市太白区秋保総合支所の呼びかけから始まりました。メンバーを公募し、2012年7月に立ち上げました。以降、共に様々な活動を展開してきました。立ち上げから2年間、メンバーは豊かな自然や風景に触れたり、神社やお寺を巡って歴史を学んだり、秋保の隅々まで歩き回りました。秋保に伝わる伝説や民話などの調査では、地元の年配者から、これまで話されることが無かった貴重な話を掘り起こすことができました。また、秋保以外に住むメンバーとの活動を通じて「これまで当たり前と思っていたことが、実は秋保の魅力だったと気付かされた」と委員長の庄子敏明さん。新たな発見の連続でした。

さらなる情報発信を

活動は、今年で5年目を迎えました。これまで秋保総合支所は、会合の場の設定や委員会の方向性を提案するなど、住民が自主的に活動に関わるための土台づくりをしてきました。地域のために何かしたいと思っても、ゼロから活動を立ち上げるのは容易ではありません。「総合支所の呼びかけは、地域活動に一步踏み出すきっかけになった」と副委員長の伊藤恭平さんは、参加のきっかけを振り返ります。

今後は、まち歩きパンフレットを活用したガイドツアーに挑戦します。メンバー自らがガイド役となり、市民の目線でツアー参加者に秋保の新しい楽しみ方を提案していきます。秋保市民センターも協力を惜しみません。まち歩きの専門家を招いたガイドボランティア養成講座を開催し、講座にはメンバーの多くが参加しました。スキルを身に付け、さらなる魅力発信に力を入れます。

庄子さんは「秋保にできるだけ多くの人に住んでもらいたい。そのために、楽しみながら地域に貢献したい」と語ります。地域の人々が楽しみながらまちづくりに取り組む姿が、秋保の魅力そのものになっています。

(取材・文 佐藤健太郎)

市民ライター 安藤綾香

みんなの心を健やかにするアート

仙台市中心部にある勾当台公園から聴こえてくる楽しげな演奏の音色。小道の両脇にテントが並び、手芸品や陶芸品、お菓子などを売る人々の声や、買い求める人々の流れて賑わいます。まるで文化祭の様な雰囲気を見せるのは、バリアフリーなアートを楽しめる「Aiどんどこ市」。Aiとは、主催する一般社団法人アート・インクルージョンの略です。



▲毎年春に開催。今年は4月16日(土)、17日(日)の2日間で、福祉事業所を中心に20団体ほどが出店。

Aiは障害の有無や国籍・性別・年齢を超え、アートを通して全ての人を優しく“包み込む(=インクルージョン)”社会の実現を目指す団体です。活動の柱である就労継続支援事業B型の福祉作業所「Aiファクトリー」では、利用者が絵や歌、ダンスなど自身に合うトレーニングを重ね、作品を販売したり、ステージに出演したりと、自立に向けて社会との関わりを作っています。

代表理事の白木福次郎さんは「アートは心の健康。絵や音楽に触れることで人生が豊かになります」と話します。

グループによるダンスステージもありました。楽しい振付を交えながら、目いっぱい体を動かす姿は気持ち良さそう。ダンスは心身の健康に繋がる素晴らしいアートだと感じました。前々からダンスに憧れながらも、始められなかった私。一生懸命踊る姿に後押しされ、私も一步踏み出してみようと思っています。

■連絡先
一般社団法人アート・インクルージョン
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-10-1
第二勝山ビル6F
TEL 022-797-3672 Mail office@art-in.org

お役立ち本 助けてと言えない 孤立する三十代

NHK クローズアップ現代取材班 / 文芸春秋

39歳男性、餓死。2009年4月13日、北九州市の借家で男性は見つかりました。死後、数日経っていました。本書では、家族や友人に「助けて」と言えずに孤独に死を迎えたこの男性の背景に迫ります。そこから見えてきたのは、他人事とは思えない様々な事情と、同じような境遇のなかで孤独にもがく30代の人々の姿でした。ある男性の孤独死によって浮かび上がった、日本社会全体の問題を考える一冊です。



おトクな本 地域で自分の力を活かすチャンス! 「夏ボラ」

申込み期間: 2016年5月23日(月)~6月16日(木)

仙台市内で活動する市民活動団体やボランティアグループ、社会福祉施設などでボランティア活動を体験してみませんか?仙台市ボランティアセンターが主催する夏のボランティア体験会、通称「夏ボラ」では、ボランティア活動してみたい人と、ボランティアに来てほしい団体をつなげます。問い合わせ: 仙台市社会福祉協議会 仙台市ボランティアセンター TEL 022-262-7294 HP <http://www.shakyo-sendai.or.jp/>



ここチェック 豊かな歴史・文化・逸話などをまとめた地域誌 『太白区まち物語』

仙台市太白区の住民が、現地調査や聞き取りを重ね、地域資源を掘り起こし、自ら執筆まで担当して冊子にまとめた。これまで、生田・茂庭台地域の方々が「生田物語」、山田・鉤取地域の方々が「山田・鉤取まち物語」を発刊しました。(各1,200円)現在、八木山地域で八木山まち物語作成委員会を立ち上げ、平成28年度の冊子完成を目指して取り組んでいます。太白区まちづくり推進課、生田市民センター、山田市民センターで販売。
●問い合わせ: 太白区民部まちづくり推進課 地域活動係 TEL 022-247-1111(内線6137)